



企画展

青淵先生と 初期竜門社の人びと

— 竜門社創立 —
140年

渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち

2026 **4.1** WED **水**
7.26 SUN **日**

渋沢史料館 企画展示室

開館時間

10:00～17:00

*入館は16:30まで

休館日

月曜日、祝日の翌平日

*月曜日が祝日の場合は開館

入館料

一般500円(400円) / 小・中・高100円(80円)

*2026年4月1日からの新料金です

*()内は20名以上の団体料金

〈主催〉公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢史料館



公益財団法人 渋沢栄一記念財団

渋沢史料館

Shibusawa Memorial Museum

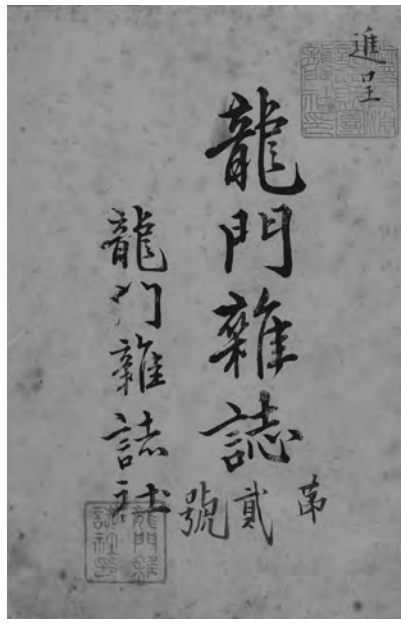
〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1 (飛鳥山公園内)

<https://www.shibusawa.or.jp/museum>





1



2



3

企画展

青淵先生と 初期竜門社の人びと

— 竜門社創立 —
140年

渋沢栄一を慕い、学んだ若者たち

本年は私たち公益財団法人渋沢栄一記念財団の前身、「竜門社」が明治19年(1886)に創立されてから140年の節目です。

竜門社の起源は、東京深川にあった渋沢邸の書生たちが勉学に励み、演説・討論をした勉強会です。組織名は青淵先生(渋沢栄一)の学問の師である尾高惇忠が、渋沢邸の書生名簿を「竜門名簿」と名付けたことに由来します。

討論会や雑誌『竜門雑誌』の発行など精力的な活動を続けながら勉学に励んだ書生たちはやがて社会で活躍するようになり、竜門社も書生ばかりでなく青淵先生の思想や人柄を慕い、多くを学ぼうとするさまざまな人々の組織へ発展しました。そして明治末には同人組織を脱し、青淵先生の掲げた「道德経済合一説」を広め、実践するための団体へとなるため組織を改めました。大正13年(1924)には財団法人となり、改称などを経て現在に至ります。

本展示では、竜門社が同人組織だった時代を「初期竜門社」と位置付け、その中心だった渋沢家の書生出身の社員たちに注目します。当時の写真から彼らの姿を、『竜門雑誌』からは活動の様子を、そして社員名簿の調査成果からは書生たちがどのように成長したのかをご紹介します。



4



5

【表面資料】

竜門社第7回秋季総集會集合写真(東京銀行集會所)
明治24年10月25日

【裏面資料】

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| 1 初期の竜門社旗を持つ尾高豊作
昭和13年頃 | 2 『竜門雑誌』旧2号
明治19年7月15日 |
| 3 渋沢邸の書生たち
明治24年11月1日 | 4 深川邸の書生部屋
明治35年頃 |
| 5 青淵先生の演説(第44回秋季総集會)
明治43年11月25日 | |

*すべて渋沢史料館所蔵



公益財団法人 渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
Shibusawa Memorial Museum

〒114-0024

東京都北区西ヶ原2-16-1(飛鳥山公園内)

TEL:03-3910-0005

<https://www.shibusawa.or.jp/museum>

交通案内

- ・JR京浜東北線王子駅南口下車/徒歩約5分
 - ・東京メトロ南北線西ヶ原駅下車/徒歩約7分
 - ・都電荒川線飛鳥山停留場下車/徒歩約4分
 - ・都バス飛鳥山停留所下車/徒歩約5分
 - ・北区コミュニティバス飛鳥山公園停留所下車/徒歩約3分
- ※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。

